

「新型コロナウイルス禍 在外の学校現場から」

アルゼンチン ブエノスアイレス日本人学校 校長 松田 弘和

目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった事情
- ④ 実際の取組
- ⑤ 苦労していること
- ⑥ 喜びを感じていること
- ⑦ 今後への課題
- ⑧ 終わりに

- 18,000KM、海を越え、空を越え、山を越え、18,000KM、日本と正反対の地にある
- 南米アルゼンチン・ブエノスアイレス日本人学校は、3月下旬より他の日本人学校・補習授業校同様、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4月開校を断念、休校措置を取り、急遽オンライン授業体制を整備し、4月20日以降、学校運営を継続してきている。
- 様々な課題を抱えつつも、画面上には子どもたちが毎日集い、互いにブエノスアイレス日本人学校の仲間たちとつながっていることを喜び、また教師・保護者も子どもたちの笑顔に支えられて、ここまでやってくることができている。
- 以下、示された項目別に報告させていただく。

① 学校の規模や子どもたちの実態

- 小中学部全学年に在籍生がいる。9学年8クラス体制（中12合同クラス）、25名で小学部21名、中学部4名。
- 当初の予定は29名だったが、新小1が3名日本にとどまり、小4の1名が日本に転出帰国した。
- また、一時帰国児童3名が日本で本校のオンライン授業を日本の学校に通いながら可能な範囲で受けている。

② 現地の新型コロナウイルス事情

- 6月5日現在、アルゼンチンのこれまでの感染者総数22,020、死者648、回復者6,180、6/5の新感染者983で、5月半以降、首都圏で爆発的に増加している。首都圏に90%が集中し、貧困層地区、老人ホームでクラスターが起こっている。
- アルゼンチン政府は3月15日より、現地校休校措置、3月20日より全国強制隔離令（自宅待機令）を発し、現在延長を幾度も重ねられ、感染拡大を封じ込めてきていたが、ここにきて、特に首都圏では急激に感染者が増え、7月末までは継続される状況となっている。
- 飛行機の国際便、国内便は特別便以外、運行しておらず、陸路も州間の移動は厳しく制限され、バス・鉄道・地下鉄も許可証保有者のみである。食料品買い出しは500m以内は可能だが、マスクを着用、ソーシャルディスタンスは義務化されている。産業活動は、再開が許された業種店舗、オフィス、工場もあるが、首都ブエノスアイレス市は感染が拡大していることもあり、以前厳しい。
- 教育分野では、休校措置が7月末まで続き、8月から新しい国家教育プログラムのもと、再開が予定されている。私立学校や国際校では、オンラインによる授業が行われている。
- 6月5日現在、78日間、子どもたちは自宅から出ていない。世界最長更新中。

③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった事情

- 現地政府の休校措置指示、および全国強制隔離令（自宅待機令）により、自宅住居に滞在し、子どもは原則出られない。大人でも食料品買い出しのため500m以内でマスクをしての外出許可となる。
違反すれば1～9万ペソ（16,000～144,000円）高額な罰金が科せられる。
- 日本人学校児童生徒の居住地区は比較的感染者数が少ないが、油断はできない状況にある。

④ 実際の取組

4月14日開校を目指して準備をしていたが、4月初旬に実現不可と断念し、オンライン授業による学校運営の準備を始めた。
また4月8日予定の新派遣教員赴任もできなくなった。

[経過と実情]

○4月20日よりオンライン教育活動の開始。

- 8時間時間割体制を組み（7:45～15:30）、現地派遣教員4名、日本待機教員4名、現地教職員3名、現地派遣教員配偶者ボランティア2名の体制で日々の授業を回している。

（経過）4月20日よりオンライン授業体制。

- ・ 始業式実施。入学式は開校後実施予定。
- ・ 現在、1日8校時のうち毎日4～7時間参加。

通常の授業時数に近づけ、学習を保障。

- 特に国・算(数)・社・理・英5教科中心。
- その他、保健体育、音楽、図工美術、技術家庭、生活、道徳、英会話、スペイン語会話、学級活動、児童生徒会委員会活動、うんどうタイム。
- ・保護者面談、児童生徒教育相談、定期テストをオンラインで実施。

○日本待機教員は、夜間にオンライン授業や学級担任活動、学校業務に あたっている。

- 授業19:45～0:30、週1回職員会議21:00～

○本校の今後の見通し

◎以上の状況から、閉校状況が7月終わりまでは続くと考え、日本人学校では8月開校想定し、1学期末および2学期前半の仮計画を設定する。

それ以前に開校できたらその時点で対応する。

逆にコロナ状況によっては8月の開校が伸びる可能性も排除できない。

(1) 授業日変更 4月14日(火)～17日(金)の休校分

7月21日(火)→24日(金)(1学期終業式)

8月11日(火)→10日(月)(2学期始業式)

(2) 1学期の行事予定

○運動会中止

○避難訓練 すべて中止。可能なものは2学期へ。バス内訓練など。

○剣道授業中止

○テストの日(2回) 小学部、中学部とも自宅実施。

○期末保護者懇談 5月・7月実施

(3) スクールバス 運行せず。年間契約のため、バス会社への月々の支払いが必要。バス維持管理費のため6割負担に減額合意済。
5月分は保護者請求せず、6月分にまとめて請求。

(4) 2学期開始

8月10日（月）始業式・入学式・着任式（願望）

8月 音楽鑑賞会・天体観測会中止。

9～10月 学習発表会、修学旅行

コロナ状況を見て、実施の方向で検討中。

[取り組み]

- ・ zoomでの授業：（国・算（数）・理・社・英の主要5教科、学活・道徳・体育・図工（美術）・音楽・技術家庭）、英会話、スペイン語
 - 日本待機中の派遣教員にも協力してもらい可能に。
 - 待機中の派遣教員にはおもに午前中の授業（時間割の工夫）
- ・ zoomでの保護者懇談：新年度スタート後、学級担任が顔合わせを兼ねて行った。
- ・ 中学部定期テスト：外出自粛中も毎日の授業を行うことで、定期テストを実施することができた。家庭の協力を得て、厳密に実施できた。
- ・ 児童生徒会活動：児童生徒会本部（中学部生徒4人）を中心に、ブエノスブーム集会の企画運営を行っている。また、「体育環境委員会」「図書放送委員会」のそれぞれの委員会活動では自宅待機中の全校生徒の生活にメリハリを持たせるための活動を企画実施している。

学校再開は未定であるが、再開後には児童生徒会主催でみんなを元気にするようなイベントを実施しようと児童生徒会活動は盛り上がりを見せている。

- ・ブエノスズーム集会：中学部の生徒を中心にオンラインでもみんなでできることを話し合い、ブエノスズーム集会を考案。週2回全校児童生徒がオンライン上で集まり、児童生徒会本部が子どもたちの点呼、司会を行い、集会を進行している。

図書放送委員会 ・ ・ 本紹介

歓迎インタビュー（4月から新しくきた児童、新派遣教員（実施予定））、誕生日インタビュー

体育環境委員会 ・ ・ 運動タイム前後の準備体操、整理体操

各学級・個人からの発表 ・ ・ 学級や個人で取り組んだことを発表する。

自作料理ビデオ、絵画、調べたこと、集会にあわせてみんなを楽しませるプレゼン、合唱など



①初めのあいさつ(事務局)→「おはようございます」

②「これから、ブエノスズーム集会をはじめます、はじめましょう」

③「はじめに、運動タイムに入ります。準備運動を体育環境委員、お願いします」

④準備体操(体育環境委員)→
おわり→塔村へ

⑤運動タイムの運動紹介(塔村)→
塔村→体育環境委員へ

⑥ストレッチ(体育環境委員)→
おわり→⑦「ありがとうございました。次に図書放送委員、お願いします」

⑧インタビューなど(図書放送委員)→
図書放送委員へ

⑨その他発表(学級・個人)→
おわり→⑩「ありがとうございました」

⑩「その他発表や連絡はありませんか?」

⑪「その他、発表や連絡はありませんか?」

⑫先生方からのお話・連絡→
⑬「先生方何か連絡はありませんか?」

⑭「おはようございます」(事務局)

⑮「おはようございます」(事務局)

⑯「おはようございます」(事務局)

⑰「おはようございます」(事務局)

⑱「おはようございます」(事務局)

⑲「おはようございます」(事務局)

⑳「おはようございます」(事務局)

㉑「おはようございます」(事務局)

㉒「おはようございます」(事務局)

㉓「おはようございます」(事務局)

㉔「おはようございます」(事務局)

㉕「おはようございます」(事務局)

㉖「おはようございます」(事務局)

㉗「おはようございます」(事務局)

㉘「おはようございます」(事務局)

㉙「おはようございます」(事務局)

㉚「おはようございます」(事務局)

㉛「おはようございます」(事務局)

㉜「おはようございます」(事務局)

㉝「おはようございます」(事務局)

㉞「おはようございます」(事務局)

㉟「おはようございます」(事務局)

㊱「おはようございます」(事務局)

㊲「おはようございます」(事務局)

㊳「おはようございます」(事務局)

㊴「おはようございます」(事務局)

㊵「おはようございます」(事務局)

㊶「おはようございます」(事務局)

㊷「おはようございます」(事務局)

㊸「おはようございます」(事務局)

㊹「おはようございます」(事務局)

㊺「おはようございます」(事務局)

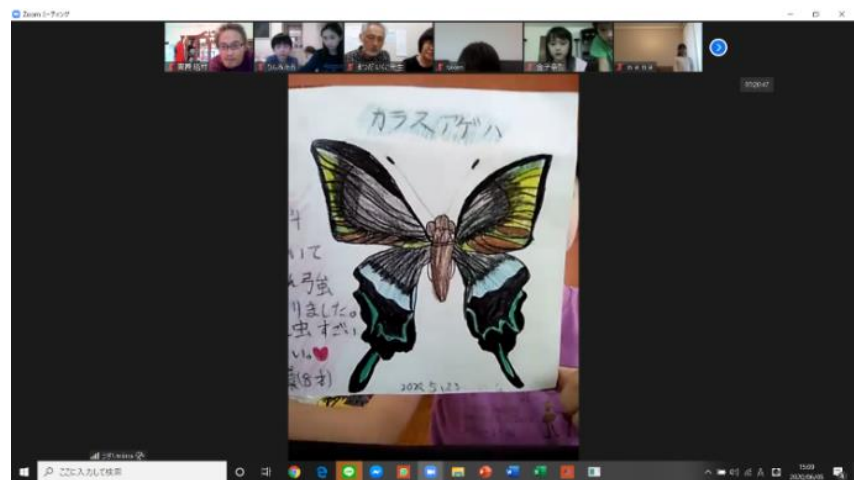
㊻「おはようございます」(事務局)

㊼「おはようございます」(事務局)

㊽「おはようございます」(事務局)

㊾「おはようございます」(事務局)

㊿「おはようございます」(事務局)



最初に赤リンゴで試してみました。
手伝ってもらいました。

- ・運動タイム：月曜日に教員側からその週の運動動画を紹介。

一週間を通して取り組む運動動画を家庭に配信し、各自が毎日取り組み、月曜と金曜に全校で曲に合わせて運動する時間を設けている。家庭では保護者も子どもと一緒に運動する機会となっているようだ。



⑤ 苦労していること

- 各家庭・教員自宅・学校のインターネット接続状態が不安定。しばしば途切れ、スムーズな授業ができないことがある。各自所有のデバイス、住居、時間帯にもよる。
- 出席確認で個別の電話対応が必要。
- 低学年ではIT機器操作など保護者のサポートが欠かせない。
- 手元が見えず、確認・指導しづらい。
- 実物教材を使っでの授業が難しく、児童生徒の手元にも教材がない。
- 教材を使った本格的な授業が展開できにくい。
- オンラインは個別指導が難しい。
- 提出物が出しにくく、宿題確認も難しい。
- 家庭・教員宅によってはプリンターがないところが多い。
- オンライン授業のための教材作成・授業準備・事後処理に通常よりも多く時間がかかる。
- 日本待機教員は深夜授業となっている。
- 長期に及ぶボランティア（教員配偶者授業）
- 教員過重労働気味（現地および日本とも）

⑥ 喜びを感じていること

- 教師側も生徒側も今まで経験してきたものを抜きにして「新しいもの」を自分たち流に生み出してうまく流れに乗っていること。
- 今まで自分に自信のなかった生徒がオンラインではあるが児童生徒会の活動に携わるようになり、少しずつ、「やる気」と「責任感」が沸き、自分に自信がつき始めている。これを教師側が感じた時。
- オンライン上であるがみんなの顔が見えている時の子どもたちの嬉しそうな表情
- みんなで共有しつつ、一緒になって取り組んでいると、「つながり」を感じる。

⑦ 今後への課題

- 4月よりオンラインでの教育活動を行ってきて、下記のような現実的な課題もある。
- 各家庭・教員自宅・学校のインターネット接続状態が不安定。
各自所有のデバイス、住居、時間帯にもよる。
- 実物教材を使っでの授業が難しく、児童生徒の手元にも教材がない。
- 本格的な授業が展開できにくい。
- 個別指導が難しい。
- 長期に及ぶ自宅待機による体力低下
- 十分に行えていない教科、科目の学習
- 休校により行えていない行事の精選とこれからの行事予定・内容の検討
- オンライン授業のための授業準備・事後処理に通常よりも多く時間がかかる。
- 長期に及ぶボランティア（教員配偶者授業）
- 教員過重労働気味（現地および日本とも）

●また、学校再開にあたっての想定される課題もある。

完全な通常登下校、授業が可能かどうか。

【感染症対策の課題】

① 登下校のスクールバス運行・感染症対策・・・感染を持ち込まない。

バス会社との交渉・連携

② 校内での「三密」対策・・・感染経路・状況を作らない。

授業形態・行事形態・机配置・マスク・消毒など

③ 家庭での対策・・・家庭内感染を起こさない。

手洗い・うがいなど

【開校状況の課題】

8月に再開を目指しているが、コロナ感染状況、アルゼンチン政府の施策、日本待機教員の赴任状況によっては、いくつかのシミュレーションを考え、準備をしていくことになる。

① 通常登校か分散(時差)登校か。

② 通常授業か、オンライン授業と登校授業の組み合わせか。

③ 引き続き全面オンライン授業か。

⑧ 終わりに

- 単に課題プリント配布だけによる自宅学習指導であれば、子どもたちの学びを保障するとはいえず、また「学校」という学びの場を通した子どもたち同士のつながりは生まれえない。
- 自宅から出られない状況にあっても、課題はたくさんあるけれども、日本を遠く離れた中で、しかもパンデミアという世界の歴史に残る状況の中で、「学校で子どもたちが学ぶ」場を提供し、そこに私たち教員が貢献している意義は計り知れない。
- 毎日、画面に登場するブエノスアイレスの子どもたちの表情は笑顔満載である。
- 私たちは、開校を待ち望みつつ、派遣教員着任を信じつつ、子どもたちの学習保障「学びを止めない」ことと、子どもたち同士の‘つながり’を維持していくために、当地における日本人学校の教育活動は、オンラインであっても、可能な範囲での充実に取り組んでいかねばならないと考えている。